表　活断層一覧表

断層の名称	主な位置	確実度	活動度	長さ km	走　向	説　明
中央構造線	南設楽郡 鳳来町	Ⅰ	B～C	114	NE	中央構造線は九州から四国、紀伊半島を通り関東に至る日本で最長の断層であるが、本地域では現在の活動度は低い。変位地形は、本県ではほとんどない。静岡県境の東栄町、鳳来町では活動度Cクラスである。
杣（そまじ）路峠南断層	北設楽郡 稲武町	Ⅱ	C	3	ENE	低断層崖と山地緩斜面の存在から推定されるENE-WSW系の短い活断層。長野県境の稲武町に局部的に分布する。中央構造線と同系統である。
津平断層	幡豆郡幡豆町	Ⅰ	C	4	EW	横須賀地震断層の東西部分に相当する。ただし、推定される位置と地震断層の露頭は若干異なっているようである。
深溝（ふこうず）断層	額田郡幸田町 西尾市	Ⅱ	C	>3	NS	深溝地震断層の南部分に相当する。段丘面の変位量より、以前に10回程度地震により変位したと推定されるが、変位地形は明瞭でない。 1945年1月13日の三河地震で深溝断層に沿って地震断層が現れた。三河地震以前は少なくとも５万年以上は動いていない。
深溝地震断層	額田郡幸田町	Ⅰ		17	NS～EW	1945年1月13日の三河地震で深溝断層に沿って現れた地震断層。 西部で左ずれ1.3m、南東部で右ずれ0.5m。
横須賀地震断層	西尾市	Ⅰ		9	NS～EW	1945年1月13日の三河地震で現れた地震断層。 西部で0.2m、東部で0.4～0.6m。
猿投（さなげ）・境川断層※	豊田市	Ⅰ※	B※	34※	NE	平成10年度の愛知県の調査で、その南西方の高根山撓曲と地形・地質や断層の連続性から、連続した断層の可能性が高いと判断された。平均変位速度は、ほぼ全域にわたって0.1m/千年程度（上下方向）である。最新活動時期は約1.18万年前である可能性が高いことが解明された。
（高根山撓曲）※	豊明市 大府市				NNE	猿投・境川断層の南西端部に相当する撓曲崖。平成10年度の本県の調査で、地形・地質や断層の連続性から猿投－境川断層の一部と考えられた。
猿投（さなげ）山北断層※	瀬戸市	Ⅰ	B	21	NE	瀬戸市南方の猿投山と三国山の間に分布する。東大演習林付近の河谷は200～250m右横ずれし、愛工大付近では断層を境に瀬戸層群が30°近く傾斜している。平成7～8年度の調査で活動間隔が5000±400年、最新活動時期が1840～3230年前と判明した。
笠原断層	瀬戸市	Ⅰ～Ⅱ	B～C		ENE	岐阜県土岐市から瀬戸市定光寺付近にかけて分布する。屏風山断層、恵那山断層の派生断層。土岐砂礫層が瑞浪層群とほぼ垂直な断層面で接する。
天白（てんぱく）河口断層※	名古屋市 東海市	－※	－※	－※	NE	平成8～10年の名古屋市の調査で、活動停止から約15～16万年以上が経過しているので、再活動する可能性は極めて低く、特に防災上注意すべき断層ではないとした。
大高－高浜断層	大府市 高浜市 知多郡東浦町	Ⅰ	B	21	NS～WW	名古屋市大高から大府市街にかけての常滑層群（東海層群）には東落ちの撓曲構造が10kmにわたって続く。この延長には高浜市の低崖や碧南市油ヶ淵があり、平成８年度の本県の衣浦湾の音波探査等で東浦町の断層と高浜市の断層は連続した構造であることが確認された。平均変位速度は、0.1～0.15m／千年で、最新の活動時期は、大高市の南部では、2千～3千年前と判明した。
加木屋（かぎや）－成岩（ならわ）断層	東海市	Ⅰ	B	30	NS	平成８年度の調査で、東海市名和町から加木屋町、阿久比町、半田市成岩に至る長さ30kmの連続する東落ちの新しい活断層を伴う撓曲構造（上下変位量は200m以上）であることが判明した。上下変位の平均変位速度は、0.12m／千年と考えられ、活動間隔は２万年以上と推定される。最新活動時期は不明である。
阿久比（あぐい）東部撓曲（とうきょく）	半田市 知多郡阿久比町	Ⅱ		3.5	NNW	「日本の活断層」で加木屋断層の南端部としているが、平成８年度の本県の調査で単独の撓曲であることが判明。この数10万年は活動した証拠は確認されていない。
平井撓曲	半田市	Ⅱ		10	NNW	半田市青山町から半田市岡田まで約10km続くNNW-SSE方向で西落ちの撓曲。東海層群と更新世中期の武豊層が変形しており、約50万年以降に活動している。
半田池撓曲	半田市	Ⅱ		8	NNW	半田市板山町から常滑市矢田まで約8kmのNNW-SSE方向西落ちの撓曲。 東海層群が変形し、武豊層の一部も変形している。
千代ヶ丘撓曲	常滑市	Ⅱ		3	NNW	常滑市千代ヶ丘から原松町に至るNNW-SSE方向西落ちの撓曲。延長3km。 更新世後期の半田面が変位しており、更新世後期に活動した。
本宮山（ほんぐうさん）撓曲	常滑市	Ⅱ		2	NW	常滑市桧原北部から本宮山をへて奥栄町に至るNW-SE方向西落ちの撓曲。 延長約6km、幅150mであるが、文献により多少位置が異なる。
玉貫	知多郡武豊町	Ⅱ		1.2	NNW	武豊町桜岡にあるNW-SE方向の撓曲。
東大高撓曲	知多郡武豊町	Ⅰ	B	1	NNW	武豊町大足西方のNNW-SSE方向の撓曲。常滑層群が約6km、幅100mにわたって急傾斜する。更新世中期の武豊層に10m以上の高度差があり、約50万年前以降に活動した。

表　活断層一覧表

断層の名称	主な位置	確実度	活動度	長さ km	走　向	説　明
河和（こうわ）背斜	知多郡美浜町	Ⅰ	C	10	NNW	「六貫山西撓曲」､「市原撓曲」､「浦戸撓曲」よりなる。 六貫山西撓曲は、武豊層を20～30m、亀崎面を約15m東上がりの変形を与え、約13万年以降に活動した。上下方向の変位速度は0.05～0.1m/千年で、活動度はC級である。
古布（こう）断層	知多郡南知多町	Ⅱ		4.5	NS	常滑層群と師崎層群の接する西落ち逆断層で、師崎層群は撓曲状の構造となっている。第四紀の活動は不明。
別曽池撓曲	常滑市	Ⅱ	C	3	NNW	「広目撓曲」､「別曽池撓曲」よりなる。 狭義の「別曽池撓曲」は河和背斜の西翼にあたり、武豊層の基底面が東側で約40m上昇しており、50万年前以降に活動した。
岐阜－一宮線※	一宮市 稲沢市	(Ⅲ?)※	－※	－※	NNW	従来、濃尾地震時の被害分布や、その前後の水準点の変化から伏在断層と推定されていたが、平成9年度の本県の調査により、大深度反射法探査結果や既存のボーリング資料から、主要な起震断層であるとは考えられないとされた。しかし、地震に対する注意は引き続き怠るべきでないと判断された。
大薮－津島線※	津島市	－※	－※	－※	NNW	平成9年度の本県の資料調査で、多くのボーリング資料を収集し、再解析したが、地層の不連続など断層の兆候は認められなかった。地質調査所による大深度反射法探査(1998)の木曽川以西の濃尾平野の地下構造の結果からもこの断層に相当する構造は存在しないと考えられた。
大垣－今尾線※	立田村	－※	－※	－※	NNW	平成9年度の本県の資料調査では、この断層が存在すると指摘されていた付近には、地層の不連続など断層の兆候は認められなかった。地質調査所による大深度反射法探査(1998)の揖斐川西岸以東の結果からも、この断層に相当する構造は存在しないと考えられた。
木曽岬線	海部郡弥富町	Ⅱ	B	7	NNW	大垣－今尾線の南側延長部の木曽川河口左岸に位置する。熱田層と思われる地層が約30mの落差を持っており、第一礫層(2万年前に堆積)も若干変位したことから推定されている。平成9年度の本県の資料調査では、新しい見解は得られなかった。
弥富（やとみ）線※	海部郡弥富町	－※	－※	－※	ENE	平成9年度の本県の調査では、水資源開発公団が長良川付近で実施した大深度反射法探査(1994)の結果からこの断層が存在しない可能性が極めて高いと考えられた。
伊勢湾断層	伊勢湾	Ⅰ	B	27	NNW	知多半島の沖合に位置する。音波探査と重力探査結果より常滑背斜等が推定されている。沖積層の引きずりもみられる。活動度はB級で約1.5万年前以降に３回程度活動していることが判明している。
内海（うつみ）断層	伊勢湾	Ⅰ		17	NW	「日本の活断層」では、伊勢湾断層の南端部としているが、各種文献資料から別の断層と推定される。「内海断層」の名称は中条・高田(1970)による。
県外の活断層						
阿寺（あでら）断層系※	岐阜県坂木町	Ⅰ	A	35	NW	阿寺断層は付知川沿いにNW-SE方向に延びた長さ70kmに及ぶ活断層であり、北東側の阿寺山地は南西側に対して1000m程度隆起している。阿寺山地を開析する河谷は約7kmの左ずれ変位を示す。平成7年度の電力中央研究所の調査では、天正地震(1586)で活動を示唆した。
屏風山（びょうぶやま）・恵那山断層	岐阜県 中津川市	Ⅰ	B	32	NE	屏風山断層は屏風山の北西山麓をNE-SW走向に延びる断層。屏風山塊が600m～1000mほど隆起したとされるB級活断層である。 恵那山断層は、屏風山断層の南側に平行した断層で、段丘面を切断し、垂直変位量は最大600mとされる。
濃尾断層系	岐阜県根尾村	Ⅰ	A～B	76	NW	両白山地から多治見市付近の約80kmの間にはNW-SW走向の活断層が多く、ミの字の形に配列し、その一部は濃尾地震のとき地震断層となった。濃尾断層系でもっとも長い断層は根尾谷断層で約40kmの連続がある。他には温見断層、揖斐川断層や武儀川断層がある。これらも左ずれ断層である。
養老断層系※	岐阜県養老町	Ⅰ	B	30	NNW	養老断層は養老山地東麓に分布し、濃尾傾動地塊の縁辺部にあたる。 平成9年度の地質調査所の大深度反射法探査結果から、最近100万年間の平均上下変位速度は約2m/千年、最新活動時期は2千～3千年前以降と考えられる。この調査結果は、養老断層が天正地震(1586年)の時に活動した(飯田、1985)可能性を示唆する。
桑名断層系※	三重県桑名市	Ⅰ	B	12	NE	桑名市街西方の段丘面はたわみ(撓曲崖)や階段状の地形が顕著に認められ東海層群も変形している。桑名断層は養老断層の南端から南東方向に延びた後、桑名市で南西方向に転じる。平成9年度の地質調査所の調査で、最新の断層活動で、上下方向に約6mの変位が生じたことが明らかになった。また平均活動間隔が1400～1700年と見積もられた。
鈴鹿東麓断層系	三重県員弁郡 藤原町	Ⅰ	B	約60	NS	鈴鹿山脈の東麓にN－S系の一志断層と通称される断層群。 本断層は、平成８年に三重県でトレンチ調査等の活断層調査がなされた。

愛知県「愛知県活断層アトラス」(1997)をもとに、科学技術庁(1997,1998)等より作成

(注)※は愛知県「愛知県活断層アトラス」(1997)に記載された名称や確実度等を科学技術庁(1997,1998)の結果等で今回修正したもの

1．中部圏の活断層

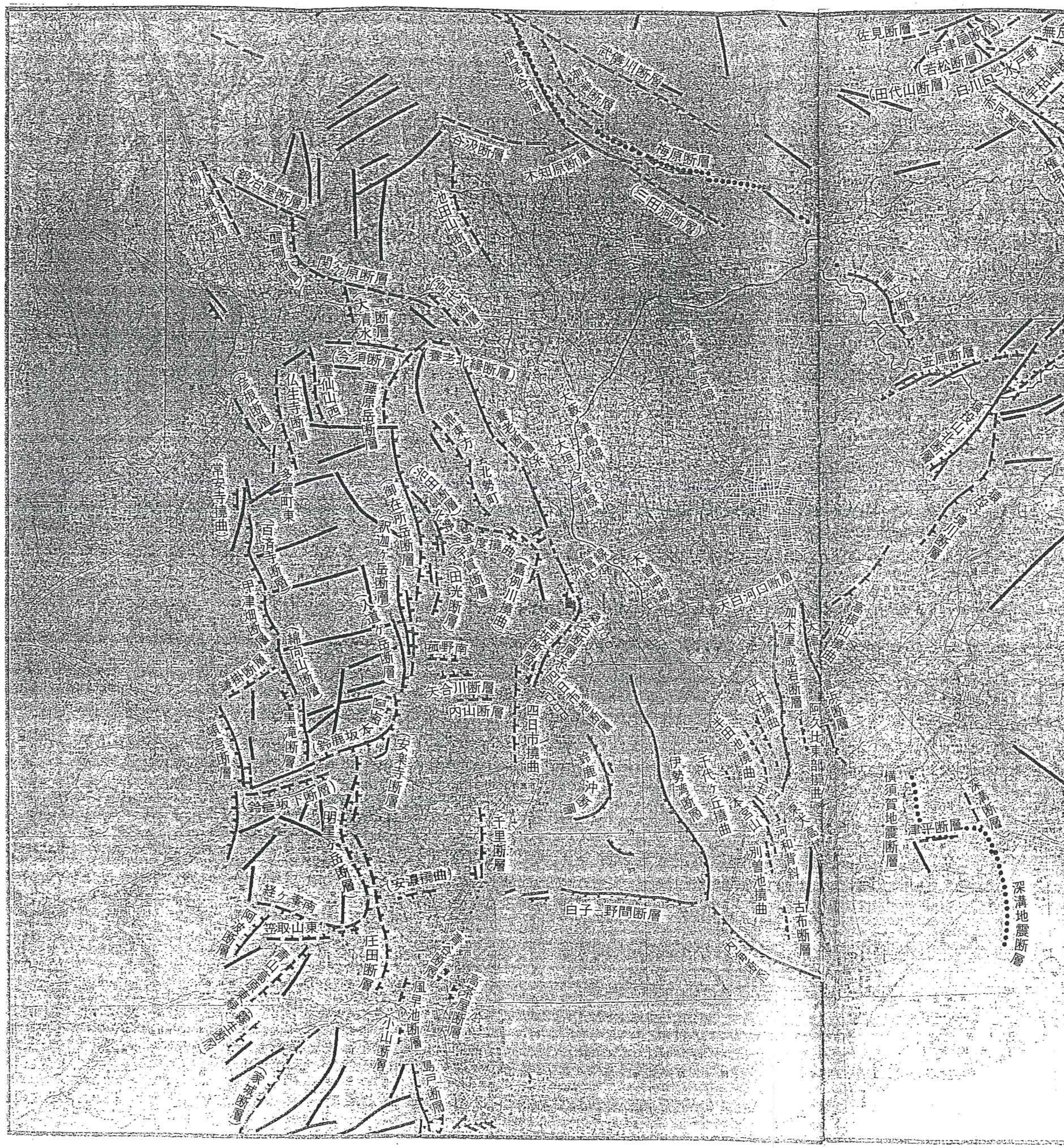
武儀川断層
根尾谷断層
梅原断層
谷汲断層
木知原断層
三田洞断層
池田山断層
鍛冶屋断層
関ヶ原断層
大清水断層
今須断層
養老北縁断層
霊仙山西
藤原岳断層
多賀町東
北勢町
常安寺撓曲
百済寺断層
御在所岳断層
釈迦ヶ岳断層
田光断層
綿向山断層
西野尻
矢合川断層
内山断層
四日市撓曲
鈴鹿坂下断層
千里断層
安濃撓曲
経ヶ峯南
笠取山東
庄田断層
風早池断層
小山断層
島戸断層
白子－野間断層
伊勢湾断層
大垣
長島
天白河口断層
加木屋
成岩断層
大高
千代ヶ丘撓曲
河和断層
別曽池撓曲
古布断層
横須賀地震断層
津平断層
深溝地震断層
佐見断層
若松断層
田代山断層
白川口
水戸野
無反峠付近
岩山南麓
棚田断層
赤河断層
川上断層
屏風山断層
恵那山断層
笠原断層
細路峠南断層
清内路峠断層
飯田
松川断層
10000 m
10
20
30 km

図　　活断層分布図（出典：愛知県活断層アトラス）